

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 18 年 1 月 12 日 (2006.1.12)

【公開番号】特開 2005-325369 (P2005-325369A)

【公開日】平成 17 年 11 月 24 日 (2005.11.24)

【年通号数】公開・登録公報 2005-046

【出願番号】特願 2005-215109 (P2005-215109)

【国際特許分類】

C 0 8 L 101/02 (2006.01)

C 0 8 K 5/205 (2006.01)

【F I】

C 0 8 L 101/02

C 0 8 K 5/205

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 10 月 12 日 (2005.10.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

以下の成分：

(a) アクリルポリマー、ポリエステルポリマー、ポリエーテルポリマーおよびポリウレタンポリマーからなる群から選択されるポリマーであって、カルバメート、ウレタンおよびアミド官能基からなる群から選択されるペンダントおよび/または末端官能基を含有するポリマー；ならびに

(b) アミンとイソシアネートとの反応生成物を含有するレオロジー改変剤、を含有する、組成物。

【請求項 2】

前記ポリマー (a) の前記官能基が、カルバメート官能基である、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 3】

前記組成物がさらに、前記ポリマー (a) とは異なるポリマー (c) を含有する、請求項 2 に記載の組成物。

【請求項 4】

前記レオロジー改変剤が、前記ポリマー (a) の存在下で調製される、請求項 2 に記載の組成物。

【請求項 5】

前記ポリマー (c) が、ヒドロキシル基含有ポリマーである、請求項 3 に記載の組成物。

【請求項 6】

前記レオロジー改変剤が、前記ポリマー (c) の存在下で調製される、請求項 5 に記載の組成物。

【請求項 7】

前記組成物中の前記ポリマー (a) の総樹脂固体含量が、該組成物の総樹脂固体含量に基づいて少なくとも 5 重量%である、請求項 2 に記載の組成物。

【請求項 8】

前記アミンが、モノアミンである、請求項 2 に記載の組成物。

【請求項 9】

前記モノアミンが、ベンジルアミンおよびヘキシルアミンからなる群から選択される、請求項 8 に記載の組成物。

【請求項 10】

前記イソシアネートが、多官能性モノマーのイソシアネートである、請求項 2 に記載の組成物。

【請求項 11】

前記イソシアネートが、1,6-ヘキサメチレンジイソシアネートである、請求項 10 に記載の組成物。

【請求項 12】

前記レオロジー改変剤 (b) が、アミン対イソシアネートの比が 0.7 ~ 1.5 : 1 であることで特徴付けられる、請求項 2 に記載の組成物。

【請求項 13】

硬化可能組成物であって、以下の成分：

(a) アクリルポリマー、ポリエステルポリマー、ポリエーテルポリマーおよびポリウレタンポリマーからなる群から選択されるポリマーであって、カルバメート、ウレタンおよびアミド官能基からなる群から選択されるペンダントおよび/または末端官能基を有するポリマー；

(b) アミンとイソシアネートとの反応生成物を含有するレオロジー改変剤；ならびに

(c) 該ポリマー (a) の該官能基と反応性である官能基を有する硬化剤、を含有する組成物。

【請求項 14】

前記ポリマー (a) の前記官能基が、カルバメート官能基である、請求項 13 に記載の硬化可能組成物。

【請求項 15】

前記組成物がさらに、前記ポリマー (a) とは異なるポリマー (d) を含有する、請求項 14 に記載の硬化可能組成物。

【請求項 16】

前記レオロジー改変剤が、前記ポリマー (a) の存在下で調製される、請求項 14 に記載の硬化可能組成物。

【請求項 17】

前記ポリマー (d) が、ヒドロキシル基含有ポリマーである、請求項 15 に記載の硬化可能組成物。

【請求項 18】

前記レオロジー改変剤が、前記ポリマー (d) の存在下で調製される、請求項 17 に記載の硬化可能組成物。

【請求項 19】

前記硬化可能組成物中の前記ポリマー (a) の総樹脂固体含量が、該硬化可能組成物の総樹脂固体含量に基づいて少なくとも 5 重量%である、請求項 14 に記載の硬化可能組成物。

【請求項 20】

前記アミンが、モノアミンである、請求項 14 に記載の硬化可能組成物。

【請求項 21】

前記モノアミンが、ベンジルアミンおよびヘキシルアミンからなる群から選択される、請求項 20 に記載の硬化可能組成物。

【請求項 22】

前記イソシアネートが、多官能性モノマーのイソシアネートである、請求項 14 に記載の硬化可能組成物。

【請求項 23】

前記イソシアネートが、1,6-ヘキサメチレンジイソシアネートである、請求項 22 に

記載の硬化可能組成物。

【請求項 24】

前記レオロジー改変剤が、アミン対イソシアネートの比が 0.7 ~ 1.5 : 1 であることで特徴付けられる、請求項 14 に記載の硬化可能組成物。

【請求項 25】

前記硬化剤 (c) が、アミノプラスト樹脂である、請求項 14 に記載の硬化可能組成物。

【請求項 26】

硬化可能コーティング組成物であって、以下：

5 ~ 85 重量 % のフィルム形成ポリマーであって、該フィルム形成ポリマーはアクリルポリマー、ポリエステルポリマー、ポリエーテルポリマーおよびポリウレタンポリマーからなる群から選択され、ペンダントおよび / または末端カルバメート官能基を有する、フィルム形成ポリマー；

0.1 ~ 5.0 重量 % のレオロジー改変剤であって、アミンとイソシアネートとの反応生成物から構成される、レオロジー改変剤；ならびに

5.0 ~ 60 重量 % のアミノプラスト硬化剤、を含有し、ここで、重量 % は、該硬化可能コーティング組成物の総固体重量に基づく、硬化可能コーティング組成物。